

石井としひろの「館山市政かわら版」

敏 宏

館山市議会議員

「なぜ？」を考える政治



1、「身体で覚えろ！」というお役所仕事

①私の会社員時代の経験

かなり昔の話ですが、私は新入社員の頃、仕事を覚えるのに苦労しました。運送会社に勤めていて、税関で輸入貨物を通す手続きをして、お客に届ける配送手配までが業務でした。海外から貨物が航空便で飛んでくるところから私の仕事になるわけですが、最初は何が何だか、さっぱりわからない状態です。

先輩社員には、「言われた通りにやれ。習うより慣れよ。理屈は後からついてくる。1年くらいでわかってくる。仕事は身体で覚えろ！」と叱咤激励されました。

理由もわからず仕事をしていましたので、ミスも多く怒られまくりでしたが、1年くらいしたら、確かに理屈がわかってきて、3年後にはかなり熟練してきました。

②身体で仕事を覚えているだけの人多し

仕事に慣れてきて気づいたのですが、理屈が後からついて来ない人も多いのです。理由を理解せず、経験の積み重ねでパターンを丸暗記している仕事ぶりです。

しかし、この身体で覚えるだけの人は応用が効きません。経験したことがないパターンだとお手上げなのです。確かに、身体で感覚的に仕事を覚える人は、最初是要領よく速やかに仕事をこなせるのですが、長い目で見ると成長に限界があるわけです。

③館山市役所でも自分がやっている仕事の意義がわからない職員も多いのではないかな

職員は前例通り、国からの指針通りに仕事をしています。マニュアル通りということなのですが、たいていはそれで足りる。ただ、それだけだと、イレギュラーなケースや、うまくいかなかった場合に対応ができなくなります。いわゆる「お役所仕事」の限界です。以下、具体的な事例を検証します。

2、有害鳥獣対策の「なぜ？」

①なぜ館山市は南房総市よりも捕獲報奨金が安いのか

南房総市はイノシシ1頭を捕獲すると1万6千円の捕獲報奨金が出ます。一方、館山市では1万3千円です。この3千円差は有害鳥獣の対策従事者にとっては理解しがたいものです。仮に1万6千円だとしても、一頭の捕獲には膨大な労力がかかるので、仕事としては成り立ちません。あくまでも、地区や市民のためのボランティアなのです。

この差が埋められないのは、館山市は財政が厳しくて

やむを得ない面もありましたが、今年になって国から補助金が出るようになりました。

昨年までは、県が4500円、市が8500円を負担しており、合計で1万3千円でした。今年になって、館山市でも捕獲頭数が増え、国の補助基準を満たしたことにより、国が8千円を負担してくれるようになりました。

しかし、その代わりに市が500円しか負担しなくなったので、捕獲報奨金は1万3千円のままでした。「なぜ、国から8千円が来たのに、捕獲報奨金を上げないのだ」という不満の声が上がっています。



②市役所のよくわからない言い分

市が値上げできない理由は、「国と県の方針で、1頭あたりの捕獲費用は全て含めて17300円以内が目安。捕獲報奨金を1万6千円にしてしまうと、その他の経費、例えば、わな代・保険料などを含めると17300円を超えてしまうから、値上げはできない」というものでした。

私は「17300円以下にしなければならない根拠がわからない。市の捕獲報奨金は市で決めることであり、国や県にどうこう言われる筋合いはない」と思ったので、県に電話で問い合わせしてみました。

③県の担当者もよくわからない言い分

県の担当者いわく「確かに、市には17300円以内が目安と伝えてある。しかし、自分も前任者から“国の方針”だと引き継いだ時に『なぜ、その金額以下に抑えなければならないのか？』と疑問をもったが、その理由はわからなかった」とのことでした。

④元締めである国の担当者に直撃

農林水産省農村振興局農村環境課鳥獣対策班の担当者に電話をしたところ、なんと17300円の話を全否定。どうやら県と市が勘違いをしたようです。

「17300円？ そのようなルールもないし、そのようなことを伝えたこともない。国からの補助は8千円だが、それ以外は地方が独自で補助をすればいい話であり、ウチが上限を設定する理由はない。現に高額の報奨金を出している自治体もある」という旨の回答。

⑤「なぜ？」を考え、理由を突き止めて欲しい

市の担当部署には「なぜ？」を考えて欲しいものですし、県の担当部署には、「なぜ？」に気づいたなら、それを解明するまで頑張ってもらいたいところです。

3、沖ノ島の閉鎖が長期化した「なぜ？」

①沖ノ島が9月も閉鎖になっていた不思議

沖ノ島は9月末まで閉鎖されており、10月1日に開放されました。4月の緊急事態宣言の時に、新型コロナ対策として閉鎖しました。7～8月も遊泳者の事故に対応できないので閉鎖が続きました。

しかし、9月も閉鎖になっていたのは理由がさっぱりわかりません。6月までは密集を避けるための感染対策が主、8月末までは事故防止が主な理由だというのはわかります。

でも、9月は事故防止の観点では例年と同じであり、感染対策で県から自粛要請が出ていたのは6月までです。9月は閉鎖する理由が全くないのです。現に、他の海岸で9月も閉鎖していたところはありません。

市民からは沖ノ島を早く解放して欲しいという声も上がっていました。この件も、「なぜ閉鎖を続けるのか？」と突き詰めて考えていけば、おのずと速やかな開放ができていた件だと思います。



4、市より県が偉いという「なぜ？」

①市と県は対等

ちょっと古い話ですが、市議会で部長が「県の方針どおりに」という答弁を繰り返したので、もっと市として自主性を発揮すべきと考えた私は、「県が県が、と言いますが、市と県はどちらが上なのですか？」と皮肉な質問をしてしまったことがあります。

私は「対等です」という答えを期待していたのですが、

なんと部長の答弁は「県です」というものでした。予期せぬ答弁に私はうろたえて、そのまま終わってしまったわけですが、その1時間後に答弁の訂正がありまして「市と県は対等」に直されました。

皮肉なクイズをしてしまった私もよくなかったと反省していますが、市役所職員には県の方が上だという意識があるからこそ出た本音なのかも知れません。

実質的に県の方が力関係が上の場合もあるのですが、法律上「市と県は対等」ということと、市が主体性を持って、「なぜ？」を考えて欲しいと思います。

5、「なぜ？」を考えないのはなぜ？

①前例踏襲が良しとされるのが役所

行政というのは、朝令暮改とはいきませんし、変えると「以前の方が良かった」というクレームも受けるものです。また、変えるのにはエネルギーと初期投資が必要なので、大変なのです。さらに、変えると、前任者の仕事の否定と捉えられてしまうこともあります。だから、役所というのは一般的に変化を嫌い、何か改善しようと発言しても、「そんなことはしなくていい」と潰されがちなのです。それを押し切って実行して失敗でもしようものなら、「それ見たことか」と非難されます。議会でも批判されてしまう場合があります。だから、市役所はひたすら前例踏襲に固執し、「問題点がわかっても改善をしない」「改善は困難だから、そもそも問題点を考える自体が無駄」「なぜ？と考へてもしょうがない」という意識になってしまうのかも知れません。

②挑戦する者が評価される人事制度に！

市役所は観光部門から健康部門に異動があるなど、民間企業であれば「転職」に近いような人事があります。

人事異動で新たな仕事に携わった時、「なぜ、このような事業をしているのか？」という素朴な違和感を大切にしたいです。

そして、「なぜ？」から「こうした方がいい」という行動に移した職員を評価する人事システムに変えるべきだと思います。トヨタ自動車では、「カイゼン」が社訓のようになっており、改善が組織的に制度化されていますが、市役所も参考にしてはどうでしょうか。

石井としひろ 略歴

昭和47年2月26日生まれ。
館山二中、安房高、立教大学法学部卒業。平成23年4月に館山市議会議員に初当選。



<発行者> 石井敏宏

〒294-0038 館山市上真倉320-2

TEL&FAX: 0470-23-7738

携帯: 090-1557-5515

メール ishiitoshihiro1@gmail.com

ブログ <http://ameblo.jp/ishiitoshihiro/>